

各浄化方法の比較

グリストラップ、ビル浄化槽の「悪臭」と廃油脂の「清掃」
が衛生管理上大きな問題・困り事になっています

従来は従業員様の労働でこの問題の解決を図っていましたが、長期間の使用により
いくら表面上を清掃しても、廃油脂がこびり付いた配管の中まで清掃は出来ません。
又バキュームをかけても、沈殿した汚泥・廃油脂は除去できませんが、
さすがに「臭い」までは取れません。

<主な装置・方式の効果比較表>

方式	酵素	バイオ	オゾン	吸着シート	トルネーダ(竜巻流)
油脂分解理論	有機物で分解	バクテリアで分解	酸化分解	吸着	イオン化による 生分解促進
臭い	▲	▲ 水温の管理、菌の 流出、効果にムラ	○ 油脂酸化分解	×	◎
清掃頻度	月に2回酵素 注入	月に1回菌注入	月1度点検	そのつど	◎ 必要なし
配管詰まり	▲	▲	なし	なし	なし
人への影響	なし	なし	× 高濃度、臭い	なし	なし
害虫忌避	▲	▲	○	×	○ 害虫が来なくなる
周辺機器への影響	○	○	× 酸化によるサビ	○	○

酵素とは？

生体のたんぱく質化合物で、生物化学反応によって有機物を分解する。
欠点・・・浄化槽内の水温によって酵素の効果が出ない事もある。

バイオとは？

微生物を投入して廃油脂の分解をする。
欠点・・・浄化槽内の冬季、水温低下により浄化効果が発現できない。
定期的に菌の追加が必要であり、維持管理費用が高額。

オゾンとは？

化学式はO₃で、強力な殺菌力と油脂の酸化分解を行う。
欠点・・・濃度によっては、人体・周辺機器に悪い影響が出る場合がある。
湿度管理が不可欠であり、酸化による周辺機器腐食が懸念される。